



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Winter 2002(Vol.3, No.1)

設立20周年を迎えるにあたって

代表世話人 大河原良雄

グローバル・フォーラムは、設立後20周年を迎え、揺籃期少年期の試練を乗り越えて愈々成年期の活動を展開することとなる。9月11日以後、新たな挑戦に立向う国際秩序作りが求められている。私達のフォーラムが全世界を視野に着実な発展を遂げることを願って已まない。



経済人世話人 豊田章一郎

米国同時多発テロとその後の展開は、異なる文化を持つ地域や国家間の対話・交流の重要性を再認識させています。20年の歴史を持つ当フォーラムの活動は益々重要になります。21世紀のグローバルな課題に対し、国際的な「知的対話」の場として重要な役割を果たすことを期待します。



経済人世話人 茂木友三郎

グローバル化が進展する中で、そのプラス面を生かし、マイナス部分を少なくしていくことが必要だが、そのためには各方面のリーダーの国境を越えた意見交換・知的交流が不可欠である。その点、グローバル・フォーラムの果たす役割は大きいと思われる。



政界人世話人 谷垣 禎一

グローバル・フォーラム設立20周年を心からお慶び申し上げます。今、我が国は世界の中の一員として大変重要な立場におかれています。日本は、国際社会との間の諸問題に相互理解を深めることがますます必要です。世界平和のために同志の方々と共に私も微力を尽くしてまいります。



政界人世話人 鳩山由紀夫

グローバル・フォーラム発足20周年を心からお祝い申し上げます。今回の米国多発テロを思うにつけ、これからの時代において国家間の重層的なネットワークがいかに重要かをまざまざと感じ、正にグローバル・フォーラムの果たすべき役割を強く自負しています。



政界人世話人 浜田卓二郎

今世紀、海洋国家日本が、真のグローバル化の波を起こす日は近いでしょう。その魁役を果たして来たグローバル・フォーラムの活動を高く評価しています。私も世話人として新しい役割を担う事になりました。皆様と共にしっかりと取り組んで行く所存です。



有識者世話人 島田 晴雄

21世紀に入り、世界は益々混迷している。これからの日本そして世界の進むべき途をどう見つけ出し切り拓いてゆくのか。グローバル・フォーラムではこれまでも産政官学の論客が知見をもち寄り熱心な議論を通じて新たな価値を生み出してきたが、未来を照らすその役割は今後一層重要になる。



有識者世話人 太田 博

グローバル・フォーラム設立20周年に当たり、四極フォーラム時代からの関係者として衷心より祝意を表したい。グローバル・フォーラムが今後とも世界の重要なパートナーとの知的対話を通じ、何よりも我が国のオピニオンリーダー層の思考の一層の国際化に貢献し続けることを期待したい。



世話人事務局長 伊藤 憲一

当フォーラムの常連の仲間から、韓国、台湾で外相、ルーマニアで国防相が生まれました。当フォーラムをつうじて、日本の人脈が着実に世界に広がるよう、10年でホップ、20年でステップなら、これからはジャンプです。「継続は力なり」といいます。引き続き頑張りたいと思います。



「日豪対話」 本年9月19-20日開催へ

本『会報』前号既報のとおり、2002年度の当フォーラムは、2月20-22日に「日アセアン対話」、5月16-17日に「日中対話」の開催をそれぞれ予定しているが、さらに9月19-20日には「日豪対話」を開催することが確定した。

当フォーラムが3年越しで働きかけてきた結果、シドニー大学アジア太平洋研究所 (RIAP)、メルボルン大学アジア連携センター、オーストラリア国立大学国立アジア太平洋研究所の3大学付属機関がコンソーシアム (事務局 RIAP) を結成し、豪側の共催者となることが決まった。

テーマは「日本とオーストラリア：アジア太平洋地域における協力の展望」。地域安全保障の動向や、人の移動の社会経済的意味などを議論する。

新政界人世話人に 浜田卓二郎参議院議員就任

石井一二政界人世話人の退任後空席となっていた政界人世話人に、さる9月5日浜田卓二郎参議院議員が就任した。谷垣禎一、鳩山由紀夫両政界人世話人の推挙による。



ところで、この「就任」は正確に言えば「復帰」である。というのも、浜田議員こそは、それまで「経済人」「有識者」のみで組織されていた当フォーラムに、1984年「政界人」グループを結成した中心人物であり、以来10年間政界人世話人として当フォーラムの活動の推進力であったからである。

事務局便り

当フォーラムも節目の20周年を迎えました。例年国際対話の実施は3回ですが、本年は4回となります。事務局員にとってはちょっと大変なのですが、なんとかやり遂げます。

第2回「日韓対話」 本年11月14-15日開催へ

当フォーラムは、2002年度の最後の国際対話として、11月14-15日に第2回「日韓対話」を開催することとなった。共催相手は第1回「日韓対話」(2000年12月)と同じく、ソウル国際問題フォーラム (SFIA)。

韓国側では韓昇洙外相が今期国連総会議長兼務という激務にもかかわらず、日本側伊藤憲一世話人事務局長と緊密な連絡をとって、開催に向けての韓国側取りまとめに当たってくれた。

今回の対話は、韓国側からの強い希望もあって、単なる二国間問題ではなく、むしろ「東アジアの将来と日韓協力の可能性」をテーマとすることとなり、東アジア地域秩序形成に向けての日韓の「協働」(working together)の道筋を探ることとなった。

謝 辞

当フォーラムの諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人世話人および経済人メンバーの所属する企業の納入する賛助会費にあります。

現時点における賛助会費納入企業は、下記の17社25口です。ここに特記して謝意を表します。

- [経済人世話人所属企業][5口]
- トヨタ自動車 キックマン
- [経済人メンバー所属企業][1口]
- 住友電気工業 鹿島建設 新日本製鐵 東京電力 三井住友銀行 富士通 第一勧業銀行 旭硝子 東京三菱銀行 日本電信電話 東京海上火災保険 富士ゼロックス ビル代行 日本原子力発電 松下電器産業
- (入会日付順)

■新規就任世話人・入会メンバーの紹介 (9-11月分)

- [政界人世話人]
- 浜田卓二郎 参議院議員
- [政界人メンバー]
- 逢沢 一郎 衆議院議員
- 上田 勇 衆議院議員
- 岸田 文雄 衆議院議員

太田博世話人 バンコク・ジャカルタ出張

太田博世話人は2月20-22日開催予定の「日アセアン対話」の最終打合せのため、昨年11月にバンコクとジャカルタを訪ねた。19日にタイ安全保障国際問題研究所 (アセアン側まとめ役) のクスマ評議会議長、プラネー所長等と、また22日にインドネシア戦略国際問題研究センターのソサストロ所長等と会談し、「日アセアン対話」の議題、運営方法等につき最終確認した。

フォーラム活動日誌 (9-11月)

- 9月6日伊藤憲一世話人事務局長、Gordon Flake 米マンスフィールド太平洋問題研究所長と会食、懇談
- 9月11日第137回国際政経懇話会 (Gerald L. Curtis 米コロンビア大学政治学部教授他19名)
- 9月25日-10月1日伊藤世話人事務局長、中国国際友好連絡会と交流のため訪中 (北京、上海、広州等)
- 10月10日伊藤世話人事務局長、Chew Tai Soo 駐日シンガポール大使と会食、懇談
- 10月19日伊藤世話人事務局長、M. Maurice Gourdault - Montagne 駐日フランス大使と会食、懇談
- 10月24日第138回国際政経懇話会 (谷内正太郎外務省総合外交政策局長他29名)
- 11月5日Ken Moskowitz 東京アメリカン・センター館長、伊藤世話人事務局長を表敬来訪
- 11月15日Egbert Frederik Jacobs 駐日オランダ大使、伊藤世話人事務局長を表敬来訪
- 11月19日太田博世話人、Kusuma 安全保障国際問題研究所評議会議長、Pranee 同所長らと懇談 (バンコク)
- 11月22日太田世話人、Hadi Soesastro 戦略国際問題研究センター所長と懇談 (ジャカルタ)

- 浅尾慶一郎 参議院議員
- 荒木 清寛 参議院議員
- 小宮山洋子 参議院議員
- 世耕 弘成 参議院議員
- 林 芳正 参議院議員
- 築瀬 進 参議院議員
- [有識者メンバー]
- 君和田正夫 朝日新聞社専務取締役



グローバル・フォーラム会報
2002年冬季号
(第3巻 第1号 通巻第9号)

発行日 2002年1月1日
発行人 伊藤 憲 一
編集人 渡 辺 蘭

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2190 [E-mail] jfr@mars.dti.ne.jp
[Fax] 03-3589-5120 [URL] http://www.gfj.gr.jp/